

早期景気観測調査

【10-11月期 調査結果概要報告書】

平成30年12月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成30年11月15日(金)～30日(金)
4. 調査対象： 当所会員136事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 98件
7. 有効回答率： 72.1%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【10-11月期の動き】

**全体業況は3期ぶりの悪化。
卸売業の業況悪化が目立つ。
向こう3カ月の業況は、改善の見通し。**

10-11月期の全業種総合の業況DIは、▲23.5（前期比▲6.5ポイント）と3期ぶりに悪化に転じた。売上DI、採算DIがそれぞれ2期連続で悪化しているが、一方で仕入単価DI、従業員DI、金融貸出しDIのいずれも改善に転じている。項目ごとに悪化・改善、様々だが、いずれも小幅な変動で大きな変化はない。

向こう3か月の先行き業況は、改善する見通し。

業種別では、製造業、サービス業で改善し、建設業、卸売業、小売業で悪化した。

製造業の業況DIは▲19.0（前期比+1.0ポイント）と5期ぶりに改善に転じた。売上DI、採算DI、仕入単価DI、従業員DIのいずれも改善に転じ、金融貸出しDIについても2期連続で改善している。

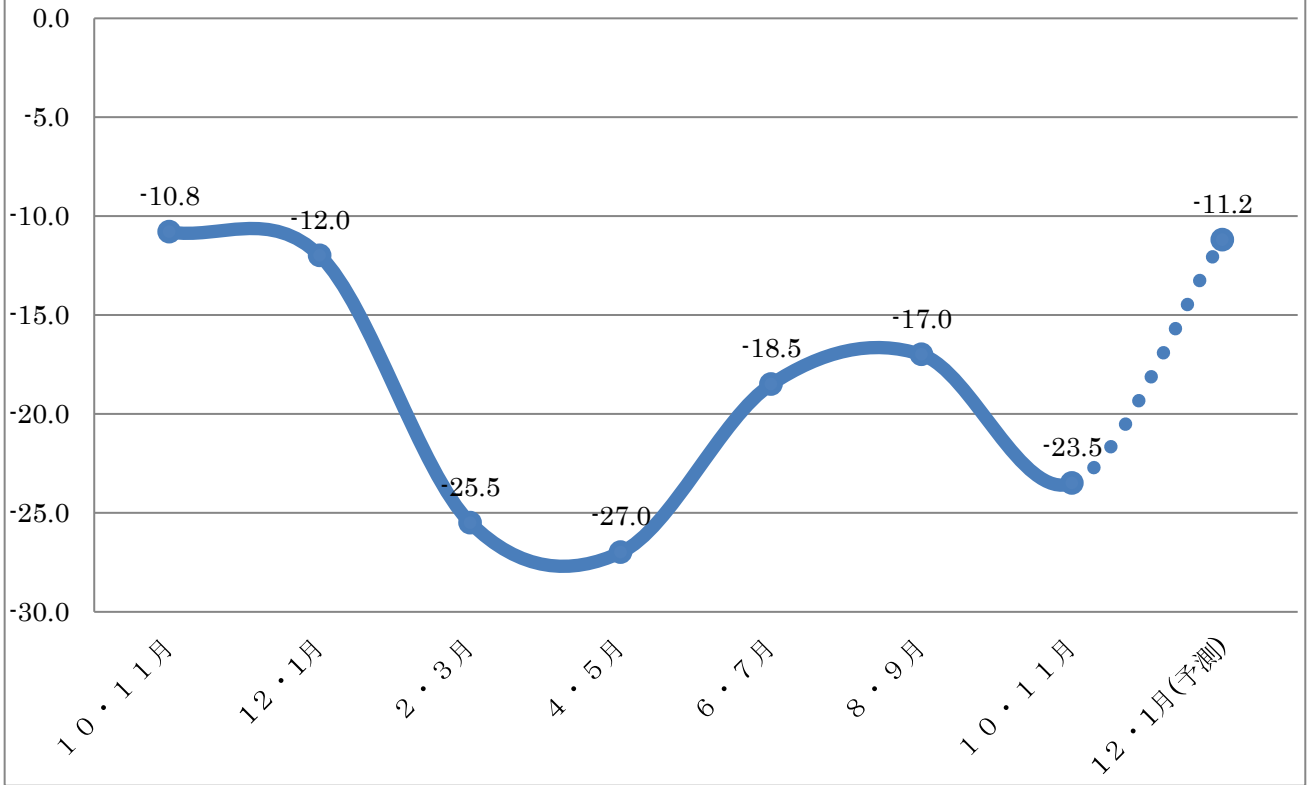
建設業の業況DIは▲22.2（前期比▲4.6ポイント）と4期ぶりに悪化に転じた。売上DI、採算DI、金融貸出しDIがいずれも悪化に転じ、仕入単価DI、従業員DIについても、それぞれ2期連続の悪化となった。とりわけ、売上DIは27.8ポイントの大幅なマイナスとなっている。

卸売業の業況DIは▲15.8（前期比▲30.8ポイント）と3期ぶりに大幅な悪化に転じた。売上DI、採算DIがともに悪化に転じ、それぞれ20.5ポイント、31.6ポイントの大幅なマイナスとなっている。また、従業員DIも2期連続で悪化したが、一方で仕入単価DIは改善に転じている。金融貸出しDIについては、横ばいとなっている。

小売業の業況DIは、▲43.5（前期比▲11.7ポイント）と3期連続の悪化となった。売上DI、従業員DIがともに2期連続で悪化し、仕入単価DIについても悪化に転じている。一方で、採算DI、金融貸出しDIについては、改善に転じた。

サービス業の業況DIは▲11.8（前期比+21.5ポイント）と大幅な改善に転じた。売上DI、採算DI、仕入単価DI、従業員DIのいずれも改善に転じている。とりわけ、売上DIは38.5ポイント、採算DIは28.2ポイントの大幅なプラスとなっている。唯一金融貸出しDIのみ横ばいとなっている。

業況D I の推移








◆全業種・業種別詳細

※ D I 値（景況判断指数）について







D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて（先行は今回実績値に比べて）		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「」（改善）と表示しております。
従業員D I は、従業員が不足している場合、「」（改善）と表示しております。

◆全業種総合

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲23.5	▲11.2	▲20.4	▲26.5	▲42.9	18.4	▲1.0

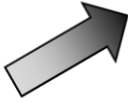
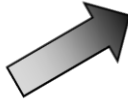
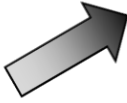
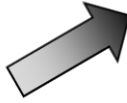
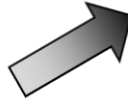
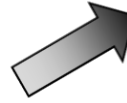
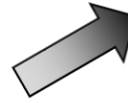
10-11月期の全業種総合の業況D I は、▲23.5（前期比▲6.5ポイント）と3期ぶりに悪化に転じた。

項目別では、売上D I（▲20.2→▲20.4）、採算D I（▲24.5→▲26.5）がそれぞれ2期連続で悪化しているが、一方で仕入単価D I（▲43.6→▲42.9）、従業員D I（18.1→18.4）、金融貸出しD I（▲2.1→▲1.0）のいずれも改善に転じている。項目ごとに悪化・改善、様々だが、いずれも小幅な変動で大きな変化はない。

向こう3か月の先行き業況は、▲11.2と改善する見通し。

◆ 業種別

製造業


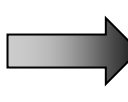





業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲19.0	▲9.5	▲4.8	▲9.5	▲4.8	4.8	▲4.8

業況DIは▲19.0（前期比+1.0ポイント）と5期ぶりに改善に転じた。

項目別では、売上DI（▲20.0→▲4.8）、採算DI（▲15.0→▲9.5）、仕入単価DI（▲15.0→▲4.8）、従業員DI（▲5.0→4.8）のいずれも改善に転じ、金融貸出しDI（▲10.0→▲4.8）についても2期連続で改善している。

向こう3か月の業況は、▲9.5と改善する見通し。

建設業

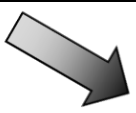
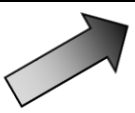
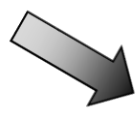
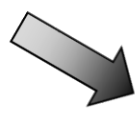
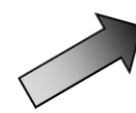
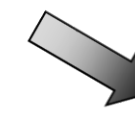

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲22.2	▲22.2	▲27.8	▲33.3	▲72.2	33.3	0.0

業況DIは▲22.2（前期比▲4.6ポイント）と4期ぶりに悪化に転じた。

項目別では、売上DI（0.0→▲27.8）、採算DI（▲17.6→▲33.3）、金融貸出しDI（5.9→0.0）がいずれも悪化に転じ、仕入単価DI（▲58.8→▲72.2）、従業員DI（35.3→33.3）についても、それぞれ2期連続の悪化となった。とりわけ、売上DIは27.8ポイントの大幅なマイナスとなっている。

向こう3か月の業況は、▲22.2と横ばいの見通し。

卸売業

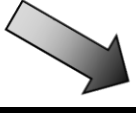
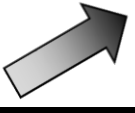
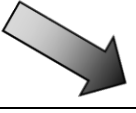
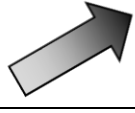
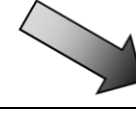
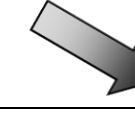
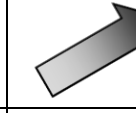
業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲15.8	5.3	▲10.5	▲31.6	▲52.6	21.1	0.0

業況DIは▲15.8（前期比▲30.8ポイント）と3期ぶりに大幅な悪化に転じた。

項目別では、売上DI（10.0→▲10.5）、採算DI（0.0→▲31.6）がともに悪化に転じ、それぞれ20.5ポイント、31.6ポイントの大幅なマイナスとなっている。また、従業員DIも2期連続で悪化したが、一方で仕入単価DI（▲60.0→▲52.6）は改善に転じている。金融貸出しDI（0.0）については、横ばいとなっている。

向こう3か月の業況は、5.3と大幅に改善する見通し。

小売業

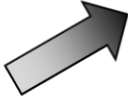

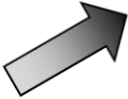
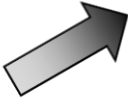

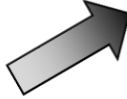

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲43.5	▲13.0	▲60.9	▲43.5	▲39.1	13.0	0.0

業況DIは、▲43.5（前期比▲11.7ポイント）と3期連続の悪化となった。

項目別では、売上DI（▲59.1→▲60.9）、従業員DI（13.6→13.0）がともに2期連続で悪化し、仕入単価DI（▲31.8→▲39.1）についても悪化に転じている。一方で、採算DI（▲50.0→▲43.5）、金融貸出しDI（▲4.5→0.0）については、改善に転じた。

向こう3か月の業況は、▲13.0と大幅に改善する見通し。

サービス業

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲11.8	▲17.6	11.8	▲11.8	▲52.9	23.5	0.0

業況DIは▲11.8（前期比+21.5ポイント）と大幅な改善に転じた。

項目別では、売上DI（▲26.7→11.8）、採算DI（▲40.0→▲11.8）、仕入単価DI（▲60.0→▲52.9）、従業員DI（20.0→23.5）のいずれも改善に転じている。とりわけ、売上DIは38.5ポイント、採算DIは28.2ポイントの大幅なプラスとなっている。唯一金融貸出しDI（0.0）のみ横ばいとなっている。

向こう3か月の業況は、▲17.6と悪化する見通し。

◆ 業種別詳細

製造業（食品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

製造業（工業製品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

製造業（宝飾）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

製造業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

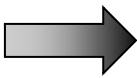
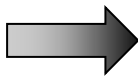


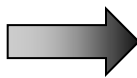
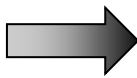

建設業（建築）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

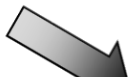




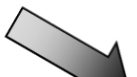

建設業（土木）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し



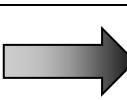
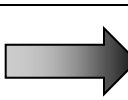
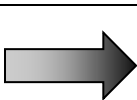
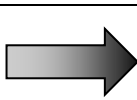
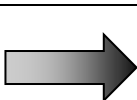
建設業（鉄鋼）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						



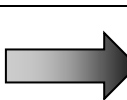
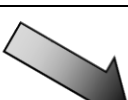
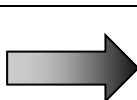

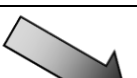
卸売業（食品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						



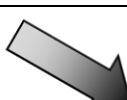
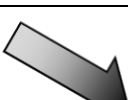



卸売業（繊維）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						




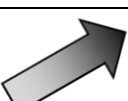



卸売業（その他）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（大型店）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（食料品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（事務用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

小売業（趣味・日用品）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

小売業（家電）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

サービス（ホテル・旅館）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

サービス業（観光）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

サービス業（飲食その他）

業況	業況(先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し

➤ 中小企業の声（現状や直面している課題）

【製造業】

製造業（食品）

- ・おせち関連の出荷が昨年より後ろにずれ込んだことと、外食向けの新規部分の売上がプラスオンで業況は上向き。一方で販管費は、発送配達費の増大と重油など燃料価格の高騰が利益を圧迫。

製造業（工業製品）

- ・10月度水晶工業界統計実績は、自動車用は受注が増加、生産は横ばい。携帯電話用デバイス（水晶振動子、水晶発振器）は、やや増加しています。
- ・米中の貿易...これが大きな変化と製造業は不安視しています。

製造業（宝飾）

- ・今月グループで行った小売の展示会では、来場客は10%減ですが、売上は30%UP。卸売において、国内の市況は依然厳しい。

【卸売業】

卸売業（食品）

- ・昨年に比べ10月中旬までは良好だった内容が、10月下旬～11月中旬にかけ大変厳しい内容となっております。理由としては、今年は台風の影響が次第に回復してきたのに対し、昨年は台風の被害は11月以降に出始めたことに尽きます。今後とも厳しい状況が続くでしょう。
- ・年末年始の際物商材（養殖魚ブリ、タイや酢だこ、鮭類）の相場上昇。原乳不足による牛乳、チーズの不足。精肉価格の下落により、水産品の購買力ダウン。

卸売業（その他）

- ・12月以降上昇の見通しあり。
- ・業界内では業況が安定している会社が多い様子。競争激化やお客様の使用量減など課題も多い。

【建設業】

建設業（建築）

- ・人手不足が続いている。下請け業者の材料費が上昇。生コンクリートが、来年の1月より3割アップとなり業界では1番の上昇率である。
- ・ここ1年で、材料費、人件費が1～2割上昇。今後もこの傾向は続く様子。材料不足、人手不足。山梨では、さほど建設工事が増えていないが東京に引っ張られている。
- ・公共事業の入札が不調になるケースが頻発している。構想段階で過剰な設計や無理な予算計画の実態がある。我々専門工事会社への影響が、20年を超えたところから出てこないと思います。

建設業（鉄鋼）

- ・鋼材単価は高値で推移している。建設用ボルト生産が追い付かず、納期2～3ヶ月遅れ。下請け業者の人手不足感あり。

【小売業】

小売業（大型店）

- ・秋物商戦にて気温が高く推移したため、顧客の衣料品への関心が薄れる。個人消費全般に関しては、上昇の兆しが見えない。

小売業（食料品）

- ・売上は下がっていますが、経費削減により内容は維持されています。

小売業（事務用品）

- ・「働き方改革」のハード部分、すなわちオフィスの大改革を行いました。実際に仕事をしているところを見ていただけます。オフィスツアーいつでもOKです。

小売業（趣味・日用品）

- ・少子高齢化の中、子供の数が減っているのが業界として大きな痛手。小さなパイを同業者で取り合っている。店頭は高齢者向けにシフトしているが、最近ではネットで購入する。また、そのツケが送料にきている。
- ・過日、NHK「鶴瓶の家族に乾杯」で米子の商店街が舞台でしたが、甲府の銀座通りと同じく来街者の影は全くありませんでした。
- ・市場規模は安定している（減少していない）が、販売チャンネルが多様化しているため、苦戦している状況です。

【サービス業】

サービス業（観光）

- ・売上高は、特に10月前年同月が天候不順による売上減少が観光関連部門で顕著であり、本年は順調に推移しました。賃貸不動産の売上減（改修による休業）もあり、全体としては前年と同水準を見込んでいます。
- ・観光客が減少傾向にあります（観光シーズンが短い）。物価の高騰で消費が落ち込んでおります。
- ・甲府、昇仙峡方面の観光客が減少しています。
- ・前年に比べ、10月は天気が良かったので売上が増加したと思われれます。11月に関しては、1番のピークである上旬が、昨年は3連休だったことが影響し、減少したと思われれます。

サービス業（飲食その他）

- ・寒くなり鰻の需要は減少しています。ですが仕入単価は下がっておりません。年末、年初に向けてどのように推移していくか難しいところです。
- ・中心街道路整備もほぼ完了し、街並がきれいに生まれ変わりました。飲食店業界も新規店が徐々に増え始め、活況を取り戻す感があります。

以上